

新型コロナウイルス感染症の拡大で全国的に夏祭りやイベントが中止になっています。

「この夏は祭りばやしの音もなく早七月か過ぐるを惜しむ」。例年初夏に入ると、八日市場地区の各町内から「八重垣神社祇園祭」に向けて囃子の音が聞こえはじめ、次第に熱を帯び本番を迎えます。今年は神事のみ行われるとのこと、勇壮な神輿渡御は見られません。

祇園祭は牛頭天王を祭って疫病を鎮める年中行事で、疫病が最も流行しやすい旧暦6月に行われました。天王宮でも1761(宝暦11)年ごろは6月18日から3日間行われたことが記録に残されています。

江戸時代、牛頭天王を祭った神社は、この他、市内では東谷(平和地区)の八坂神社と小高(飯高地区)の八坂神社の2社があります。

小高の八坂神社は毎年1月の裸参りで行われ、昭和40年代初めごろまで行事の前に祭囃子と山車が集落を回っていたこと

を記憶しています。おそらく夏の縁日にも同様の巡行があったのでしょう。この神社は県道74号線に面し、1819(文政2)年、近隣の飯塚、内山安久山と、現在は多古町の方田、坂の5カ村の協力で立てられた石の鳥居があります。

その右側に高さ60センチほどの石祠(石の宮)が祭られ、これが市内で唯一「牛頭天王」と刻まれたものです。40年ほど前には文字が読めましたが、今では摩耗が進み判読できません。1791(寛政3)年5月、小高村の人たちがお経300巻を上げたことを記念し奉納したのでしょう。

新型コロナウイルス感染症の収束が見られない中、全国の神社や寺院で祈願や祈禱が行われています。江戸時代の人たちも疫病流行に対し神仏に祈ったことが石造物から知ることができます。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎73・0080



八坂神社の牛頭天王宮(飯高地区小高)